

教科「国語」

科目「国語総合」

単位数	5単位
担当者	伊藤和恵 五十嵐克己
教科書	高等学校 改訂版 新訂国語 現代文編・古典編(第一学習社)
副教材等	改訂版 国語総合学習課題集 現代文編古典編(第一学習社) プレミアムカラー国語便覧(数研出版) 読解を大切にす る体系古典文法(数研出版) 精選漢文(尚文出版) 常用漢字ダブルクリア 三訂版(尚文出版) 他

【1】科目の目標

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにすることができる。言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ることができる。

【2】科目の内容と進め方

現代文は毎週2時間の授業。古典の授業は毎週3時間で、7月までは古文を中心に、9月・10月は漢文の基本を、11月からは週2時間が古文、週1時間が漢文となる。

【3】学習形態

教室で授業を行う。一斉、グループ、ペア、個人など、様々な学習形態で学ぶ。

【4】学習上の留意点

「現代文」では、教科書の範囲にとどまらず、進んで数多くの良書を読み、思考力を深めていくことが大切。「古文」の学習では未知の言葉を学ぶつもりで取り組むこと。その時代の人々の心情や考え、生活等を理解し、思考力を伸ばそう。「漢文」は古代中国の文章ですが、長い歴史を通じて日本人の言語生活になじみ、思想や文化に大きな影響を与えてきました。日常で使う言葉や表現の中にも漢文由来のものがあることに注意しよう。

【5】評価の方法と評価の観点

① 評価の観点

- 1 関心・意欲・態度：国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとすることができたか。
- 2 話す・聞く能力：目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めることができたか。
- 3 書く能力：相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めることができたか。
- 4 読む能力：文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができたか。
- 5 知識・理解：伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけることができたか。

② 評価の方法

- ・ 授業での学習活動の様子、課題への取り組み状況から、主体的に学習しようとする関心・意欲・態度を評価する。
- ・ 授業での学習活動の様子から話す・聞く能力を評価する。
- ・ 定期考査や課題テストから、読む能力・書く能力・知識・理解等を評価する。

【6】その他

なし